

第6回太郎川公園再生検討委員会 議事録

日時 : 令和4年2月9日(水)18時～

場所 : 梶原町役場2階2-1会議室

出席委員: 11名(空岡則明、上田末喜、長山和幸、森山真二、上田知子、山口眞知子、
石川清利、田村俊夫、明神哲男、那須絵梨、アウテンボーガルト陽平)

欠席委員: 和田紗代

事務局他: 吉田尚人、大川真一郎、山本和正、田尾由紀、笛木保志、立道斉、来米修作

・開会

・審議

【空岡委員長】

皆さんこんばんは。今日は大変お忙しい中を第6回の梶原町太郎川再生検討委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆さんも既に新聞報道等でお存じであると思いますけれども、梶原の新ホテル全面見直しということで、事業の話、内容が変わってきております。こうして今日はですね、町長さんにお越しをいただきまして皆さんに説明もいただけるということでございます。その説明を聞いた後ですね、なお、この検討委員会のあり方なり今後の方向性を決めていきたいという風に思っておりますので、皆さんどうぞよろしくお願いをいたします。

【大川課長】

ありがとうございました。それでは町長の方から一連の新聞報道も受けての報告の方をしていただきたいと思います。

【吉田町長】

はい。皆さんこんばんは。空岡委員長をはじめとする検討委員会の皆さんには、本当に日中のお仕事、また何かとご多用の中にも関わらず、仕事でお疲れのところにも関わらず太郎川公園の再生事業における雲の上のホテル、そしてレストランまた道の駅の整備規模等についてご検討いただいておりますことに心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。既に新聞報道などでご承知かと存じますけれども、本日は、この事業につきまして現時点で明らかになっておりますことについてご報告をさせていただきたく出席をさせていただいたところでございます。先日、高知市で隈事務所の方から現在計画中の新たな雲の上のホテル、レストラン及び道の駅の建設費の積算内容についての報告がございました。その内容といたしましては、事業費が当初の予定を大幅に超えるものとなっております。当初の建設費の見込みといたしまして消費税抜きで26億円ということで進めてきておったところでございますけれども、今回、提示された額が約13億円増額の38億8千万円となっております。増額の主な原因は、コロナ禍におけるウッドショックや資材の高騰、また人件費の高騰などによるものでございまして、約1.5倍の事業費となっているところでございます。この報告を受けまして、関係する幹部職員で協議をいたしまして、この事業費では財源確保のめどが立たないこと、そしてまた仮に縮小してこの事業を進めたとしても、本来の魅

力が損なわれ、皆さんがこれまで会の中でもお話をいただいております自信と誇りを持てる施設にならないことなど、これまでご議論いただいた内容を踏まえ、総合的に判断いたしまして全面的な見直しが必要であると判断をいたしましたところでございます。今後の進め方については、今、検討中のところでございますけれども、スケジュールや進め方について早急に検討していきたいという風に考えているところでございます。昨年の9月定例会で一旦立ち止まり、町民の皆さんの意見も受け止めて検討し進めると申し上げ、町民の代表12名からなるこの太郎川公園再生検討委員会を立ち上げさせていただき、議会では太郎川公園の再開発に関する調査特別委員会を設置いただきまして、それぞれ検討、調査いただいていたところでございます。熱心にご検討いただいている中で基本的な方針に関する今回のご報告をさせていただくこととなりましたが、この事業が本町の未来に向けて全力をあげて取り組む必要のある重要な事業であることには変わりありませんので、アフターコロナの社会の状況に留意しながら、住民の皆さんが誇りを持てる、皆さんに喜んでいただける施設となり、産業の振興による心豊かな暮らしの実現と町民の皆さんの自信と誇りにつながるよう、そういった施設にできますように取り組んでまいりますので、今後ともご理解いただき、ご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。以上でございます。ありがとうございます。

【空岡委員長】

はい。ただいま町長より説明をしていただきました。この内容を受けてですね、私どもとしてはですね、この検討委員会が町長から諮問を受けまして、10月20日に町長より構原町太郎川公園再生検討委員会設置要綱第2条の規定に基づき、次のとおり諮問しますということで、新たに建設する雲の上のホテル、レストラン、道の駅についての施設規模等に関する検討について貴委員会の審議を求めますということで諮問を受けております。その諮問の内容がですね、頭が、正直言ってなくなったという風に私としては感じております。その中で、今まで5回、こうして検討委員会を皆さんに検討していただきました。その中で、今後のホテル、太郎川再生に対して全てでありますけれども、皆さんから貴重な意見も随分いただいております。その意見がですね、全てが水の泡となって何もなかったというようなことにですね、残念ながら。それはできないということで、これは皆さんにご相談なんですけれども、今までの皆さんからいただいたご意見を町長の方に答申をさせていただいて、今後新たに検討する太郎川公園、ホテル、その建設の内容に生かしていただく、そういう風な方向性での答申をまとめてこの検討委員会としての任務を果たしたいという風に私としては考えますけれども、この件についてですね、皆さんからご意見等を、是非いただきたいと思っておりますので、本当に本当にこう忌憚のない意見をですね、言っていただけないかと思っておりますけれども、どうぞよろしくお願いをいたします。Iさん、どうぞ。

【I 委員】

雛形が今まではできてきてよね、それからこの委員会で検討しよったがじゃけんど、その雛形がとんでしもうたがじゃけに、町の方もまた新しい雛形をこしらえてもらわにや、わしらも検討するにしようがないわけよね、今までのとんでしもたけ。ほんで、それができてからまたやるか、何か今までの意見、今までののがで集約するか、それを考えんといかんと思う、自分は。

【空岡委員長】

はい。全くそのとおりだと思います。それであの、私どもの一応、任期というものが3月31日という風になっております。それで今までのですね、皆さんからいただいたホテル建設に関する貴重なご意見をですね、是非、町長の方に正式な形として提出したいという思いもありますので、私としては、もうこういう結果は出ておりますから、町の方の結果は。早くにですね、この答申をまとめて、答申をしてですね、町の方に。それで、それを今後の検討の材料にさせていただくということで、また改めて町の方が計画を立てて実施をするということになったときにですね、またこういうような検討委員会を設置せんといかんというようなことになるのかどうかということもありますし、その答申をしてですね、一応、この検討委員会は3月31日の任期をもって終了させていただくという形の方が一番いいんじゃないかなという風に感じておりますけれども、そのあたりはどうでしょうかね。

【D 委員】

私、いいですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【D 委員】

はい。すみません。私もですね、検討委員会というのは、もう検討するといってもなかなか難しいなと思うんですよ。で、私は、これがもう一からの再スタートになっても、予算とか設計図なんか見ても素人はわからないんですよ。ただね、こんなホテルは欲しいよ、ホテルの中、こんな欲しいよっていうのはね、いくつか聞きました。例えば、障がい者に優しくバリアフリーであってほしいっていうこととか、それから近くの人が、町内でも、よそへもうよう行かなくなったから、家族でゆったり過ごせるお風呂の付いたそういうお部屋も欲しいねとか。それから全部にお風呂がついていなくても、最近、シャワーがものすごくいいシャワーがあるらしくて、インバウンドの関係を考えてやったら、そのシャワールームだけでもお風呂がつかなくっても、お風呂がつかなかったらだいぶ予算が削られるんじゃないとか。お風呂がつくお部屋と、つかないお部屋があってもいいよねとか。とりあえずその地域の人をターゲットにするのか、よそのインバウンドの関係をやるのかっていうのはそれはこれからのその目的だと思うんですけど。一番データであるのがやっぱりね、いいホテルでいい食事をしたいっていうので、やっぱりあの、このホテルではこういう、例えば5千円設定とか6千円設定とかこんな料理やったらこれぐらいでできるからこればあの金額のホテルを、部屋を提供したいとか。やっぱりそこらへんがどういうもの、そのやってくれる人がどんな風にやってくれるか知らないんですけど、その中でやっぱりこういうものを作ったらどうよとか、こればあの食事の関連でこれだけのものにしたいって。部屋代が高くてそれなりのお料理を出せば、充分満足いただけるものと思うんですよ。で、温泉も充分に使ってもらいたいという思いもあれば、温泉ももう少し充実をさせてもらって。温泉とホテル。私らが旅行に行ったときにあんまり温泉ってこう入りたくないっていうか、最近。それじゃなくしてお部屋にあるお風呂でも充分やし、シャワーでも充分。一番やっぱりいいのは、そのお料理が食べたいっていうのは女の人的心境ながですよ。で、何をこうそれにもっていくかっていうのはもうわからないんですけど、私たちはそういう意見を言うだ

けのことで、あとはもう予算とかそういうのは意見を聞いた中で専門家の人がちゃんと計画を立てて進めていけば、もうそれはいいと思います。私はだからもう、私たちは今まで検討したけど、そういうことになったけど、いろんな意見があるので、是非それを、意見を基にして、前に、専門家の人が進めていただいて。あの、なるべく早くホテルが建ってほしいということを願っております。

【空岡委員長】

はい。今、D 委員さんから話がありましたけれども、そういう意見をですね、今までの5回の会でも皆さんからご報告いただいております。皆さんのお手元に3枚つづりの資料があると思うんですけれども、皆さんにそれぞれいただいた意見をですね、抜粋してですね、全体的なこと、公園のこと、道の駅、ホテルと大まかなことをわけてですね、事務局の方がまとめてくれております。こういう内容をですね、ちょっと精査する必要があるかと思えますけれども、これを基にですね、この検討委員会の今まで検討した内容として、今後新たに計画をされる道の駅の整備、公園も、道の駅もホテルも全ての内容が入っていますから、こういうことも検討の中に一回組み入れて計画を立ててくださいというような内容のものしかですね、答申を出すとするばできないという風に自分としては考えます。それで、それ以上のことを私どもがいろいろ言ってもですね、これはこれから行政の方が、どういう形でやられるかはわかりませんが、ゼロからスタートされるんでしょうからその中で検討したものをですね、また町民の方に示してくれると思えますので、これ以上のことを私どもが要求してもですね、なかなかできないという風に考えますので、こういう考え方でこの検討委員会としては答申をして、任期を全うするという形が一番いいんじゃないかなという風に思います。どうでしょうかね。

【K 委員】

いいですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【K 委員】

とりあえずちょっと確認させていただきたいんですけど、以前いただいた検討委員会のスケジュールでいくと、次回あたりで意見集約を取りまとめて報告書を3月上旬ぐらいにまとめて3月中旬から下旬に答申という、この流れは変更なしということでもいいということですよ。

【空岡委員長】

いいですか。

【K 委員】

はい。

【空岡委員長】

これは日程的にはこの、当初はですね、こういう形のものです皆さんにもお渡しをしております。それで、これはあの、私がどうこうではないんですけれども、これ以上ですね、検討内容がないということになればあえて時間を割いてですね、やる必要もないでしょうし、もう皆さんの共感が得られれば次回、2月21日に、次回の委員会の予定は決定しておるんですけれども、その時点ですね、

もう答申を出して終了するというとも考えられるじゃないかなという風に私は考えております。

【I 委員】

それでええと思うよ。無駄にやったち協議のしようがない。また今度、新しいなにがあったらそれになにしたらえい。

【J 委員】

あんまりこう、長い、こういうことで長いブランクがあるようじゃったらやっぱりえいことじゃないもんな。早くほんで行政に渡して行政の判断でいろいろ進めてもらって。やることは絶対やるんでしょ。

【吉田町長】

やります。

【J 委員】

この事業をな。もうそれは決定なんやから。あとはその、今の隈研吾さん、その人が関係すること間違いなんですよ。

【吉田町長】

はい。その方向です。

【J 委員】

うん。そういう基本的なことがわかつとるやったら、もう2月末でこの会をあれして行政の方に。

【空岡委員長】

答申が早く済めば町の方としてもその答申を基にまた再検討に入る時期もちょっとでも早く入れるということも考えますし、3月31日まで引っ張るとですね、町の方としてもそれまではまあ何もできないというようなことになるんでしょうから、そういう意味では早い形で出した方が、一日でも早い、今、町長言いましたけれども、とにかく太郎川にホテルは絶対的に必要な施設ですので、これが1年2年遅れるということはですね、非常に構原町としても不利益になるし、みんなの生活もやっぱりこう、変わってくる面も関係者はあります。やっぱり一日も早いホテル建設を進めていくうえにおいては、やはりこの問題を解決してやるということも重要な観点だろうと思いますので、K さんどうですかね。

【K 委員】

私はちょっと引っかかっているところありまして、その答申、次回、答申をして終わりっていう、その答申内容をじゃあ次回の2時間で決めきれれるんですかね。今までこれだけ議論百出している中で、で、しかもその、確かに D 委員がおっしゃったみたいに細かい設計のこととか予算のこととかっていうのは確かにわからない。でも、こうしてほしいああしてほしいっていうご意見って、今、お話していただいただけでも今まで出ていなかったご意見が出てるじゃないですか。だから町長は一旦白紙にしましょう。でも白紙にするけど、ものは作る。で、作るうえにおいていやいやこういう要望、こういう要望、こういう要望っていうのはやっぱり出していくべきやと思うんですよ。その話、話がいくつかあってそれは全部、全員が賛成できるものもあれば一部の人しか賛成できないものもあるかもしれないけれども、とりあえずそういうところを皆さん、その今日、H 委員も欠席されてい

ますし、その出し切るだけ出し切って、やって、1、2回その答申案っていうのをきっちり揉んで町の方へ提出する必要があるんじゃないかなと思って。なんかさっきから話聞いてると、今まで議論百出であだこうだとやってたのに、意外と、意外と皆さん物分かりがよくなって、じゃあもうあとは町にお任せみたいな感じになってるから、それどうなんっていう話。

【I 委員】

いや。

【K 委員】

なんか前、あの前回ね、ちょっと G さん、あの言っちゃって申し訳ないですけど、最初からこの会って結論ありきで話進んでるんちゃうかみたいなお話もありましたけど、ね。そういう意味合いにおいては、あの出せるだけ出してそれをきっちり事務方なら事務方で一旦まとめていただいて、その答申案をせめて1回なり、最低でも1回なり2回なり揉んどいて、で、まあ全員が賛成できるかどうかかわかんないですけど、一つの答申案として町に提出するっていうのは、我々の役目じゃないかなと私は思ってます。あの、ここであっさり引き下がるっていうのはちょっとなんとなく、なんとなく納得できないというか。引っかかってます。正直。

【空岡委員長】

I さん。

【A 委員】

いいですか。

【空岡委員長】

ちょっと先すみません。

【I 委員】

引き下がるということじゃなしに、もう検討する対象がよね、消えたみたいな感じになっちゃうわけよね。

【K 委員】

いや、対象はなくなってるけど、あのこうしたいとかああしたいとかっていうような考え方は対象あるなしは関係ないことないですか。

【I 委員】

いやそれは。

【K 委員】

もっと言や、ホテルと、今はホテルと太郎川の再開発と道の駅が一緒のテーブルに乗っかってますけど、本来、要するにまずホテルについては建築の見直していうことになってて、今までの計画がそこへ道の駅がひつついとったりとかしてたので、道の駅も必然的になくなるのかみたいな、とりあえず白紙になるのかみたいな話になってますけど、ひょっとしたら道の駅は道の駅で別個に考えていってもええんじゃないかっていうことも考えられますよね。で、ましてや担当の課長にお聞きしたいんですけど、太郎川公園の再生についてはこれ全く別物でも物事考えていけますよね。特に H さんなんかはすごく子どもが安心して遊べる場所が本当に欲しいって言うことよく言われて

たのが頭に残ってるんですけど、やっぱりそういう意見なんかもそれはそれとして集約していかな
といかんと思うんで、いいんですかそれでっていう。

【I 委員】

いや、ええとか悪いとかいうんじゃないに、一番のメインが消えたら検討のしようがないけよね。
もうひとつ雛形を作り直してくれと言うて最初に要請したがよ。

【K 委員】

いや、雛形があるとかないとかっていう問題じゃなくって雛形は雛形、だから雛形を作るうえにお
いてのこういうアイデアがあるけどどうですかということを使うのも委員の仕事ではないかと私は
思うんですか。

【I 委員】

それはちょっと違うと思う。

【B 委員】

A さん。

【空岡委員長】

A さん。

【I 委員】

今まで、あ、いえ。

【空岡委員長】

どうぞ。

【I 委員】

今まで作ってもろうちよった雛形が変わってしまうがじゃけ、それをまた、それおいちよいて検討
せえ言うたち、ちょっと検討しにくいことない。まあそういうことです。

【空岡委員長】

はい。A さんどうぞ。

【A 委員】

えっと、本当に私もあの今のIさんのような感覚なんですけど、ものを作るときっていうのはもう予
算がまずはいくらかっていうことから決まってくると思うんですよね。で、もうこれが28億でやるっ
ていうものができなくなったということなので、当然、予算的にもう今の42部屋の84人っていう、も
うそこがぶっとんだわけで、もう完全にそういう状態ではないということですよ。ということはそれ
に合うような入れ物を作るしかないということになって、もしそうであつたら例えば今のような、その
いろんな要望の中に各部屋にお風呂があつた方がいいなとか、あるいはそのホテルにも温泉が
あつた方がいいなとか。結局その予算がいくらかわからない状態でいくら議論しても一緒なので、
私だったらやっぱりホテルにも別に、お客さん専用の温泉があつた方がいいなと。で、今の温泉は
地域の人が行く温泉で。お金を払ってくれるそういうところは別のお客さんが入るようなお風呂が
あつた方がいいっていう感覚があるんですけど、予算が決まってるので、そういうことができない
という。だから結局、予算がある程度決まって、これだけの予算でやるっていったときにじゃあ部

屋は何部屋にするのか、どういうターゲットを絞っていくのかっていう具体的な方向で進んでいけると思うんですよね。で、答申と言っても、ここにもう出ている意見をどういう風にその吸い上げてどういう方向性を示すかっていうことで、これ全部網羅することは不可能なので。やっとう残り2回3回で方向性が示せれる、もうやっとう皆さんの思いが全部こう、まな板の上に乗ったので、さあこれからどういう形に料理していくかっていう形をやるところで白紙に戻ってしまったわけですので。まあこういう意見があって町民の方が今までそのホテルを計画してきたときにこういう意見を吸い上げることが、ややその吸い上げるという手法がとられにくかった状態で進んできた結果が町長が立ち止まるという決断をせざるを得ない状況になったということなので、もう改めて見直しをするならば、こういうホテルを作りたい、それと並行して住民からの意見もきちっと吸い上げていくというそういう姿勢だけ持っていけば、もうこの委員会は解散をして次のホテルを作るというための今度はまた町民の意見を聞く会を立ち上げていけば、そこで意見のすり合わせができて、それでまあ全員が納得するということは無理にしても多くの意見を吸い上げた形で集約することができるんじゃないかな、そういう方向に私はした方がよりスムーズに動いていくんじゃないかなという風に思いますね。

【I 委員】

そのとおり。

【空岡委員長】

ありがとうございます。えっとですね、今まで、前回まで本当にこう皆さんが先ほど K さんが言われたような感覚の下で細かいこういうこともああいうこともいいんじゃないかなという意見を出していただきました。本来にしたら、今日が最終で次の会には一応答申を、内容をまとめて、それをお互い議論をして最終で3月の末に出しましょうという工程ではあったんですけども。皆さんの意見を出していただく会、5回は一応終了はしておりました。それを、これは事務局がまとめてくれた皆さんが言った個人の内容をですね、全てを網羅しとるわけではないんですけど、全体的に読んでみますと、大体皆さんの意見がこのとおり反映されているなというものにはなっています。それで、その答申書の内容ですけれども、いわゆる先ほどから話に出ておりますように、現在の計画はなくなったわけですから、それに対してどうこういうことは正直言ってできないということです。そうするとですね、新しく計画をする段階において今まで皆さんから出たご意見、こういうものも一つ加味して検討をしてくださいというような内容でしかですね、答申書を出すとするばないんじゃないかなという風に正直思います。これ以上ですね、ここで皆さんの意見をいろいろ聞いて、皆さんで議論をしてもですね、もうこれ以上のものにはならないんじゃないかなという風に思いますし、早い段階で検討委員会としての決を採ってですね、この内容が全てそのいいかどうかということは今日ここで言うのもちょっと確かに難しいところもあるのかもしれませんが、ちょっと見ていただいてですね、こういうところが抜けておるといようなことがあればですね、それはそういうことにもまたひとつなるんでしょうけれども、そういう形で検討委員会としての最終のまとめがさせていただけたらいいなというような感じではあります。どうぞ。

【B 委員】

私も皆さんの意見とは大体一緒で、あの、区切りをつけるべきだという風に思います。ただ、僕もこれ今日もらって全部読んでいるわけではございませんし、今度事務局のまとめが、まあ言葉が正しなかったらいかんがですけれども、あの、自分たちの思いにのっている文に、委員さんの意見にのっているかどうかという確認作業っていうがはいと思います。ほんで、前回、次回で全部で終わりっていう風にはっきり、まあ概ねそこで決まったら全然僕オッケーなんですけれども、皆さんが大体概ねこういう形でいいよって。ただちょっと待ってやこれはちょっと足してや、ここはちょっと引いてやとかいう意見がもしあるようでしたら一回っていうことじゃないつつ、その次まで議論をしてもいいのかなっていう風に思ってます。ただ、さっきも言ったように、いや、これで大体いいよっていうことであれば次回で締めても全然オッケーです。私はそう思います。以上です。

【空岡委員長】

はい。えっと、この内容についてですね、今日、正直皆さんに今来てもらってすぐにこれでいいという、これじゃいかんという返答はできないと思います。確かにそういうことはあろうかと思うので、まあ、これはあの工程的なことですけど、一度ですね、答申の内容を事務局と作成してですね、それで次の会にここですぐにお渡ししても時間がないと思いますので、その内容をですね、これ皆さんのところに送ることができますか。

【大川課長】

それはできます。お送りします。

【B 委員】

送ってもらたらね。

【空岡委員長】

こういう内容で答申をしたいというものを作ってですね、それで皆さんの方にお送りをさせていただく、それぞれで内容を見ていただいて、その訂正なり追加なりこういうことがあるよということがあればですね、事務局の方へ連絡をしていただいて、それをもって再度次の会にですね、そのできた内容を皆さんで確認をしていただくという作業をしたいと思います。そこで、内容が皆さんが確認が取れてこれでよしということになれば次に答申を出して、そこでという風なことになろうかと思います。次回の会は開催することが決まっておりますので、その時までにはですね、皆さんの自宅の方に送付をさせていただきますので、是非確認をしていただいて、そういう作業に移りたいという風に思います。21日に結論が出れば、3月の最初の、当初に答申をする、出さしていただくという風な形になろうかと思いますけれど。

【B 委員】

異議なし。

【空岡委員長】

皆さんそれでよろしいですかね。

【委員の皆さん】

はい。

【空岡委員長】

Kさん、いいですか。

【K 委員】

はい。まあいいっていうか、最後の最後までこだわって申し訳ないんですけど、21日には開催決定されてるんですけど、その案っていつまでに、いつ頃送ってもらえそうですか。今から単純に計算しても2週間あるやなしやのところなんですけど、送っていただいて、開催日の前々日とか3日前と4日前とか言われても読み込む時間があるやらないやらみたいところなんで。そこはちょっと。

【大川課長】

できれば、14、15には送りたいです。月、火。

【K 委員】

一週間ぐらい。わかりました。

【空岡委員長】

一応、作ったものを来週の月、火ぐらいには皆さんのお手元に届くようにしてもらえるとということでございますので、是非それぞれに検討していただいて、次の会に生かしていきたいと思います。まあできたら21日には決定をして、その次の会に答申するというような形が取ればいいかなという風に思います。事務局の方、いいですかね。

【大川課長】

はい。

【空岡委員長】

その計画でいいですかね。

【大川課長】

はい。

【空岡委員長】

今日はですね、時間が十分に余裕がありますけれども、この検討委員会で、今日本当に大事な審議の内容は以上となっております。その他の方に移ってみたいと思いますけれども、何か。

【大川課長】

委員長、よろしいですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【大川課長】

その、一応あの最終の、21日はやるということが決定していますが、3月ですね。最後の答申の日程も決めておいたらと思うんですが。

・日程調整

【空岡委員長】

他にないですかね。どうぞ。

【E 委員】

あのホテルは、もう今はできないよねっていうことやけども、その公園とか道の駅とかの今の状況とか、変化とか、なんかないんですか。

【空岡委員長】

それですね、太郎川再生は全体計画ですので見直しはそのどうこう、これはまた私が語る話ではないんですけど、一応あの、全体的なものの見直しですから工程は全てが遅れるということだろうと思います。

【E 委員】

今の現状のままが続くと思っちゃっていいですね。

【空岡委員長】

そうそう。次のホテルの検討が仕上がらないと、全てが関連した事業ですので。違いますかね。

【大川課長】

公園整備につきましては、次年度以降、令和4年度、5年度、順次進めていく予定ではおります。

【E 委員】

あるんだ。

【K 委員】

すみません、いいですか。ちょっとそこ聞きたかったんです。ホテルに関しては主に来米局長が今までずっと資料を作って発表されてました。公園のことについては立道課長、で、道の駅については山本室長でやっておられて、今回、ホテルは一旦もう一回さらにして考え直そうという話で、今更ながらかもしれませんけど、道の駅と公園って、まあ公園はもう今の話だと完全に別個に独立して話が進んでいくような感じでしたけど、道の駅は道の駅でホテルと一緒に話を進めていかないかんもんですかね。

【大川課長】

そうですね。今はセットになってますが、そこも含めて単独でいくのかっていうパターンも考えられると思います。そういったことも今、ゼロになってましてそこも含めて検討していくということなので、それはこれからの検討ということになります。

【J 委員】

雲の上全体がゼロということやな。

【山本副課長】

建物はそうですけれども、雲の上の温泉の中に市場を作ったようにソフトの取り組みっていうのはマルシェがあったり市場があったりするので、そこは続けてやっていきます。ただ建物については課長がおっしゃったとおりですね。

【K 委員】

で、公園は要するに来年度から一応、その改修されるというか、一応いろんな計画が進んでいくという、

【立道課長】

そうですね。

【K 委員】

認識で。

【立道課長】

はい。ありがとうございます。公園に触れていただきまして。公園についてはですね、来年度からまずはきつつき学習館の改修。今年度ですね、実はトイレを既にリニューアルをしまして、もう少ししたらご利用いただけるかと思えますけれども、男女きちっと分かれた形と多目的トイレを一つ、それからオムツを替えられるような、台がついたものに改修をしました。それでもう少ししたら検査をしましてご利用いただけるようになっておりますので、まずは公園の利用についてですね、一歩進んでおるといことと、建物自体もかなり老朽化進んでおりますので、建物のディテールを壊さない形での改修というのを来年度着手して、あそこがこうベースキャンプ的な機能を発揮できるようなものにしていくといことと、もう一歩進みましたらなにかアクティビティ、お子さんのこといろいろお話しいただいてましたので、ちょっと専門の事業者の方に意見をいただきながら、もう一歩、ちょっと欲張って進めれたら何か一つでもそういうものを実現していきながら徐々にこう積上げていきたいなという風に思ってます。で、私の夢としてはやっぱり町民の皆さんがお友達が来た時に、じゃあ一緒にキャンプしに行こうよとか、太郎川でバーベキューしようよとか、太郎川でお弁当食べようよって言ってもらえるような公園にしたいですし、お孫さんが帰ってきたときにおじいちゃんおばあちゃんが公園を散策して、なにか一緒にこう風を感じながらですね、森の中で過ごしてもらえるというようなものもしていきたい。あるいはまあ、委員さんも言われましたように子どもたちがやっぱり歓声を上げてですね、走り回れて遊具に群がってるっていうようなものを実現していきたいと思っておりますので、全てが一括してこうできるとは限りませんが、一歩一歩そういう形で進めてまいりたいという風に思いますのでまたご意見を頂戴できればと思います。はい。

【空岡委員長】

はい。どうぞ。

【B 委員】

今も説明があったわけですが、あの、ちょっとその新聞に載った太郎川公園ホテルショックというが、他の会でもちょっと触れましたけれども、今、町民全体にあるのかなという風に私たちのモチベーション含めてあるのかなっていう風に思ってます。これから、今、言った話なんかもうすごい大事なところだという風に思いますけれども、是非、町の皆さんには、これからは町民の皆さんに丁寧で細やかな説明っていうがをしていただいて、あつ、今こんな風に、K さんの質問に答えるだけじゃないづつに町の方から発信をしていただいて、こういう形に公園の方は進みよりますよ、ここはもう一回きちっと考え方を整理して一から白紙でやりますよみたいな部分の発信の仕方っていうがを、是非、お願いをしておきたいという風に思います。それが町民の不安を取り除いたり、これからもう一旦、前に進もうねっていう話にもなるという風に思いますのでどうかよろしくお願いを申し上げたいと思います。

【立道課長】

はい。わかりました。

【空岡委員長】

はい。ほかに何か。どうぞ。

【F 委員】

この内容の意見についてなんですけど、いいですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【F 委員】

こう議論をしていってちょっと自分なりにこの規模感について意見ができたので、ちょっと披露させてもらおうかなと思うんですけれども、小さめの方がいいかなと思いました。それはこの42室が大きいとか具体的なのはちょっとわからないんですけれども、方向性として小さい方がいいのかなと思いました。それは何でかって言うと、稼働率が高い状態で経営すれば、町民の愛着とか誇りに思えるとかっていうことにも逆につながっていくのかなって思いまして、いろんな方法でどっちにしても黒字にするのは絶対だと思うんですけれども、施設が大きくなって稼働率が低い状態で、いやでもこれ黒字だよって言っても多分納得できない方がいっぱいいると思うし、それが嫌だっと思う方がおると思うんですよね。で、逆にいつも人がいっぱい賑わっているっていう施設だったら納得しやすい、誇りに思いやすいということもあるのかなと思いましたので、具体的に部屋数とかもちろん予算の金額っていうのはちょっとわからないんですけれども、コンパクトな施設、コンパクトっていうのが正しいかわからないんですけれども、高稼働率で回る施設なんで小さめの施設っていう方向性がいいんじゃないのかなと、議論としては思うようになりました。

【空岡委員長】

はい。これは貴重な意見ですので、ひとつしっかりと意見の方に入れてもらっておきたいと思います。

【J 委員】

すみません。

【空岡委員長】

どうぞ。

【J 委員】

あの、次のその公園の整備、こんなもんで、この図面にあると思いますけれど、あんまり見てなくてあれですけど、メインになるものはどういうものですか。公園で、何言うかな、お金もかかるし、メインになるものと言えば。例えば津野町やったらワイヤーを張るとかして[個人名]が喜ぶようなものして稼ぐ、そういうものをまあ、津野町なんかしてますわね。それで構原町はどういう形の、ある程度メイン言うても、例えば遊具というかな、ここの公園にはこれがあるよいう、そんな形のものは別にないですか。

【立道課長】

あの、非常に重要なお話だと思います。公園の今後の持続的な維持であったり管理を考えたときは、当然、管理費がかかってますから何かしら稼げるものがないといけないだろうという風にも思っておりますし、ただ、一方で今まで無料でご利用いただけてきた施設にいきなり入場料をとるということはやっぱりこの太郎川公園の設置意義から考えると難しいと。じゃあどういところで稼いでくるのかということを今ちょっと考えておりまして、一つはキャンプ場というものがありましたので、それも内容を今、拡充して整備をしております。で、キャンプ場の利用料というのはひとつ徴収できるようになっておりまして、そこに付加価値をつけていきたいということで電源設備でありますとか、あるいはキャンプ道具を併せて県の助成もいただきながら整備をしておりますので、その使用料というのがひとつキーワードにもなってきます。もう一つありますのが、今考えておりますのが普段キャンプをしているような人たちが使えないような少しちょっとブランド品であるとかですね、個人でやればテーブル一つが5千円のものでいいけれども、ブランドものも使ってみたいよみたいなところでニーズを掘り起こしながらそういう新しいギアっていいですか、そういうものを試せる、貸し出しがあるような施設っていうのを目指していくことで、そういうキャンプニーズを掘り起こせるのではないかなということと、もう一つはやっぱりきつつき学習館の存在というのが非常に大きくなってきますので、あそこでなんらかこう収益を生み出せるものをちょっと考えていく必要があるのかなと。で、さらに2、3年そういう体験イベントもそうだと思うんですが、ツリークライミングを体験するのにお一人千円いただきたいとかという形もあると思いますし、そういう体験メニューってということもあると思います。で、一方でその遊具自体は、やっぱり無料で使っていただくものというのは必要かなと思っております、その間をどう縫うかというのは今ちょっと議論の争点にはなってますけれども大まかにはそういうことで考えておりまして、そういう魅力化、ちょっと特別感を出していく。その中でホテルが建った時には、ホテルに泊まらないと体験できないアクティビティを用意していく。夜、焚火をしながらワインを飲めるとかですね、そういうことでホテルへの収益性や魅力づくりにも還元していきたいなと思っているのと、例えばテントの貸し出しもですね、太郎川公園だけでテントをする必要もないのかなと。広野にもキャンプ場が出来てますし、セラピーロードもありますので、そういう秘境キャンプも楽しめるようにガイドを用意してそこでテントを張ってくれて1日一人3万円くださいっていうようなサービスも展開できていくんじゃないかなと思っていて、町内全域でお客様が巡る仕組みっていうのの拠点になるようなきつつき学習館、太郎川公園が入口になるっていうような仕組みづくりを併せてしていければ、一定程度の収益が見込めてくるんじゃないかなということと、今、試算をしております、現在の検討段階ではそう形になっております。

【J 委員】

まあ、あの、いい考えやと思いますね。私も思うのに、その津野町があれをしたから梶原町がもっと高いやつであれしたらいいとかそういうことは全然考えてなくて、私考えるのに自分の案なんですけど、このあたりにキャット王国とか、そんなものがあんまり、えっとどこやったかな日高の方やったかな。あそこの方にどっかあるような感じやったけど、梶原らにも猫がいっぱいいて、この前も道路の清掃の折に子猫の小さな白と黒のちっちゃいやつが道路の国道の前に怯えたような形でおったけど、助けてやろう思うたけど俺の方が先死ぬるから、この前助けられへんかって、あれ

したんやけどなんかその補助もらったりして、結局、お年寄りとか子どもの癒しになるものでそういうものができないでしょうか。まあ私の意見なんですけど。

【空岡委員長】

今、Jさんの言われたご意見もですね、一つの今後の検討の課題に含めていただくということは可能でございますので、貴重な意見ですので、それも含めた形でですね、検討委員会の内容として残していただくようなことにさせていただきたいと思います。

【K委員】

いいですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【K委員】

えっと、今日のうちに話しとかんとなんか答申案の中に入れてもらえそうになさそうなんで、さっきF委員が言われたいわゆるコンパクトなホテルっていうところに類するかどうかわかんないんですけど、やっぱり世の中まあまあ私らのみみたいな貧乏人もおりや超お金持ちもいまして、やっぱりその富裕層が来ても納得して泊まってもらえるっていうやっぱりホテルの機能が全部が全部そうじゃなくてもいいと思うんですけど、あってもいいのかなと。例えば今、ギャラリーのところにVIPルームが唯一残ってますよね。ああいう部屋なんかをもっと手を入れて本当にあの、我々俗にいうバトラーっていうんですけど、いわゆる執事がまるまる一日泊まっている間ずーっと張り付けてくれて、もう上げ膳据え膳で何もかもしてくれるっていう、その代わりその分のお金もちゃんといただきますよっていうお話とかね。それに準じたような部屋がいくつかあるとか。で、もうちょっと普通のレギュラー的なお部屋もありますよっていうような、そういうような内容があってほしいなっていうのが一つと、さっき、あのキャンプの話もされましたけど、まあ、今すぐどうこうじゃなくてもいいんですけどね。あの、将来的に一つや二つ今はやりのグランピング、これも要するにキャンプですけど何もかも全部その施設が用意してくれて、食事の世話までしてくれて、もう体ひとつ持って行って泊まって王様気分でキャンプができるっていうのが、今もう全国的な大流行でグランピングの施設があつちやこつちやにいっぱいできてきてますけど、まあそんなに10億20億必要なわけじゃなくて一つや二つそういう施設があってもまあまあいいのかなという気がしますので。まあ、あんまり一つの、あの、なんて言うかな、方向性だけにこだわるんじゃないかってやっぱり何度も言いますけれども世の中やっぱりお金を使いたい人もおりやそうじゃない人もいるし、その辺のところも踏まえてこれからいろいろ計画練ってほしいなという気はします。以上です。

【空岡委員長】

まあ私もですね、太郎川公園、あれだけこう大きな施設ですんであれを全てですね、一気にみんなの理想になるようなものに仕上げていくというのはですね、やはり大事業になりすぎると。やはりお金のかかる事業ですからやれるところからやっていって、それで徐々に時間がかかってもいい、予算がめどが立てばまた増設増設で立派なもの仕上げていくという、そういう考え方で。一気にそいつをやっていかうとすると、なかなか財政が厳しいけれどもできることをやっておいて、財政に余

裕ができればまた違う施設を作って充実させていくという、そういうものの考え方もあるんじゃないかなという風な感じもいたします。何と言ってもですね、こういう話をするときりはないんですけども、皆さんの考え方はどなたのご意見聞いてもですね、方向性は一定だったんじゃないかなという印象もいたします。

【K 委員】

ちょっとすみません、最後に一点だけ。

【空岡委員長】

どうぞ。

【K 委員】

お答えいただけるかどうか分かりませんが、ホテルについては一旦さらにして、今後また隈研吾事務所と話を詰めていって早急に建築にかかっていくっていう話ではありますが、その、建物完成の見込みというかゴールは何年先ぐらい。全くわからないかもしれないですけど。せめてこれぐらいの時までにはやりたいとか、意気込みでもいいんですけど、別に。

【大川課長】

なかなか今の段階では、検討も始まってないんで今の段階でお答えするっていうのはなかなか難しいですね。

【K 委員】

十年もかけようなんて思いはさらさらないですよ。

【J 委員】

俺ら生きとお間にやらしてほしいな。

【空岡委員長】

行政からは答えにくいと思いますけれども、私どもからの希望を言わせてもらえれば、1年、2年、少なくとも1年遅れるくらいは当然仕方ないと思いますけれども、やっぱり早い段階でですね、もう皆さんのどういう希望かということは大体、町長も含めて理解をされておると思いますので、やはり太郎川にホテルというものがもう絶対必要だということは町民の皆さんもわかっておるわけですから、やっぱりそこは町民の希望を叶えるうえですね、やっぱり早く検討するということは非常に大事なことだと思います。それで、話が重なりますけれども、やはりお金がなければとにかくお金が足る分を作っておくと。で、お金が出来たらまた増設していったらまた作ると、そういうこともできるわけですから。そういう考え方にも立った、これはホテルを建てるのだったら造成もせんといかんと思いますので、そういうことも含めてですね、将来に渡ってこの建物を今年建て来年はここを建てようかという、そういう発想もあろうかと思いますのでそういうことにおいた造成をしておけばいいわけであって。そういう観点に立ってできるだけ早くということは私からお願いをしたいという風に思います。えっと、何かございますかね。どうぞ。

【J 委員】

あの、今の今度出来るホテル、めちゃくちゃ陰なんやけど、今のかやぶきのところの方へやる考えはないでしょうか。というのがやはりあの、太陽光発電を屋根へしたにしてもあの陰では電気は

おこらないし、なんかやっぱりお年寄りとか来ても、あの砂防壁なんかは温かみがないように感じて。かやぶきのところの方が一番条件としてはええんちゃう。縮小とかなるいうことになるにああいうところがええんちゃうか思うて。自分らとしては思うやけど。例えば国道の上に歩道橋を作って温泉の方へ行けるとか。ちょっとお金もかかるやろうけどできればな思うて思います。またほんでホテルにしても今、あの、言われましたようにやはりあの5万の部屋が一つぐらいはあっても俺もええと思うし、マッチ箱がずうっと並ぶよりかなんかこうインパクトがあって、3日に1回しか泊まってはもらえないような部屋も一つぐらいはあってもええし、また3人ぐらいで泊まって、ちょっとリッチなところで泊まれる、そういう部屋も一つぐらいはあってもええんじゃないかと思うんですけど。

【空岡委員長】

はい。その辺は内容としてそれも加えていただくように。何かございませんかね。それぞれ皆さんが言われた意見をこういう形にまとめるとですね、やはりかなり重複した形で出てくると思います。事務局の方も今日は町長もおいでですけど、今までの5回やった議論をですね、しっかり聞いていただいておりますし議事録として残っております。そういうことをですね、ひとつ検討の内容に加えてもらいたいということでの答申という風なことになろうかと思しますので、全てを網羅していくのはなかなか厳しいかもしれませんが、本当にこう皆さんの思いが伝わるようなものには事務局がしっかりまとめてくれると思いますから、なおそれを確認していただいてこれは違いということがあればですね、再度ここへ申し出ていただいて手を加えてという形でできれば、3月4日、金曜日にはですね、答申をするという形で進めたいと思います。今日のところは皆さんのご意見が出尽くしたということであればですね、ちょっと時間早いんですけども今日は、本日の会はこれで終了させていただきまして、2月21日の会にそれぞれの内容を確認していただいて、その時に最後の話し合いをするという形にさせていただきたいんですけどもそれでよろしいでしょうか。

【K 委員】

よろしいですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【K 委員】

・事務連絡

【B 委員】

一つ、一つだけええですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【B 委員】

今、空岡委員長から、あの早くという話が出ておりましたけれども、まさしくそのとおりで、現在、雲の上のホテルがなくなったっていうことは4千人を超える宿泊者が梶原町からいなくなったということです。商売人の何人かからも、こうやっぱり経済効果の話が何人か私のところにも上がってきてるような話もあるので、是非お願いしたいなっていうのが一点です。もう一点は、先ほどからホテ

ルの規模の話とか思いの話が出ておりまして、空岡委員長からも大変厳しい経営のところがあるって話を今、言われました。私も何件か聞いているところもあります。その時に大事になってくるのがやはり経営が続いていくことが大事、せっかく作ったホテルが、結局、収益性がすごく悪くて続かなくなるってところが、今、問題になっているところです。もちろん規模のこともある、お金の予算のこともある。一方で、ただ経営が続いていくってことが橿原町の魅力が続いていくってことにつながっていきますので、まあ相反するようなことかもしれませんが、両方を追うていかないと、私たち町民が誇れる施設にもならないと思いますので、是非、よろしくお願いをしたいという風に思います。以上です。

【空岡委員長】

事務局、今の話、よろしいですかね。

【大川課長】

はい。

【空岡委員長】

他にないようでしたらこの会を終了したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。本日は大変ご苦勞様でございました。一応ですね、今日、町長から全面見直しの説明を受けて、次回の2月21日には答申の内容を確認していただき、その内容の確認によってこれでよしということになれば3月4日の午後にですね、答申するということにしたいと思います。どうか皆様のご協力をよろしくお願い申し上げ、本日の会を終了したいと思います。ありがとうございました。